

第1回富山地方鉄道鉄道線のあり方検討会の議事概要

1. 日 時 令和6年11月28日（木）15時から

2. 場 所 富山市役所東館8階 大会議室

3. 出席者 知事、富山市長、魚津市長、滑川市長、黒部市長、
上市町長、立山町長、舟橋村長

4. 概 要

（1）富山地方鉄道鉄道線のあり方検討会の設置について協議

設置要綱（案）を了承

（2）意見交換等（主なもの）

- ・ 地域公共交通の活性化につなげていく主役は沿線自治体や住民の皆さんである。
- ・ 当面の支援の議論と、中長期の今後のあり方の2つを議論していく必要がある。
- ・ 町にとって鉄道線は生命線であり、住民の生命財産を守るためにやれるだけのことをやっていきたい。
- ・ 当面の話として、何をしていかなければいけないかをしっかり議論していくことが必要。
その上で並行区間をどうするかについても話し合っていければ良い。
- ・ 少なくとも営業収支を黒字にしないといけない。そのための支援が重要。
- ・ プライオリティ（優先順位）のコンセンサスが必要。
- ・ まちづくりの観点からすると、いかに住民の皆さんに利用いただくか、乗降者数を増やしていくか、基礎自治体にとって非常に大きな責任であり、課題でもある。
- ・ これから地鉄の3路線をどう活性化して、利用客を増やし、持続可能なものにしていくのかを重視していく必要がある。データに基づく話し合いが重要。
- ・ 駅を中心としたまちづくりとの連携、活性化の取組みの次のステップとして、あいの風とやま鉄道との並行区間をどうするかという話し合いも必要。